

令和7年度 第9回（12月）教育委員会定例会 会議録

日 時：令和7年12月24日（水） 15時00分～17時00分

場 所：村民センター 大会議室

出席者：教育長 尾形 浩 教育長職務代理者 田中 博美

委 員 千 菊夫・増澤 智代・平野真也

事務局：教育次長 藤澤 勇 学校教育係長 原 久仁子

書 記：本間 裕子 以上8名 傍聴人：なし

1 開 会

2 教育長あいさつ

【南箕輪の風にて】

〈事前配付会議資料1〉

（1）教育情報 ～共に学び合う～

○鍛え 伸ばし 見守ってくれたF校長～私を育ててくれた校長先生（1）～

・教師としての転換点を与えてくれた恩師

（2）令和7年度 教育懇話会の様子（12/13）

・様々な視点からの意見、大変参考になった。大変有意義な会であった。

（3）上伊那教育長会 定例会から（12/2）

・給食費の無償化に関する意見交換、国からの制度設計を見て対応。

（4）学校教育係関係

① 文科省「学校の教職員の働き方改革推進事業」の研修会の様子（12/12）

・校長と教頭が参加しての研修。今後各校でワークショップを実施予定。

R8.1.7（水） 南部小 10:50～12:30（90分）

R8.1.21（水） 南箕輪小 15:20～16:40（80分）

R8.2.12（木） 南箕輪中 14:30～16:00（90分）

② 第4回 三校校長会から（12/12）

③ 第2回 三校研究主任会から（11/21）

④ 小中学校の司書との連絡会から（11/20）選書会について

（R8：5月 図書委員で試行、6月 箕輪町の選書会視察）

→R9 本格実施へ（図書費増額を要望していく）

⑤ はにかむ会議から

ア 南中へ・・・総合的な学習の時間（含：キャリア教育）の年間計画の作成とキャリア教育の計画の再確認を要望

イ 南中１年 大人と語る会の様子(11/25)

⑥ こどもの居場所づくりに向けて

受験勉強、ホッとステーションとして活用可能.

※11/23 長野日報の記事から

ア 村民センター２階の学習室の開放【名称：プログレス・ルーム】

利用時間 （平日 １０：００～２０：００まで）

（休日 １０：００～１７：００まで）

イ こども館：研修室１，２の壁を取っ払って、オープンスペースへ
（月～土曜日 開放）

利用時間 ◇未就学児・小学生

夏季（４月～９月） 午前９時～午後６時まで

冬季（１０月～３月） 午前９時～午後５時まで

◇中高生とその保護者

午前９時～午後６時３０分まで

（５） 社会教育係関係

① 埋蔵文化センター建設に向けて

ア 南アルプス市ふるさと文化伝承館と尖石遺跡考古館の視察報(11/19)

イ あかまつ学級での懇談から（11/5）

ウ 今後の推進について

② 令和7年度 人権講演会（11/22）・・・11/23 長野日報の記事から

③ 郡縦断駅伝の様子（11/30） 総合３位

④ R7 地域支え合いフォーラムの様子（11/30）

（６） その他

① 広報 みなみみのわ での教育情報の発信について

１２月号・・・子育て情報 「あたたかな まなざしで」 No1（教育長）

１月号・・・授業の様子から「共に学び合う」 No1 （南部小）

② 教職員組合からの要望への回答（12/25）

3 付議案件

なし

4 報告・確認事項

(1) 南箕輪村教育大綱案と南箕輪村教育委員会事業計画案について

〈事前配付 会議資料1〉

【南箕輪村教育大綱案について】

教育委員

○1枚にしてあるので見やすい。

○めざす子どもの姿に対する願いは、各校の学校教育目標、教育懇話会でのリベラル・アーツについての意見、文部科学省の示している学力の3要素を含んでいて、理解できる。

○表記について

- ・タイトル等は、ゴシックで揃えたい。
- ・表記は正しく。(R8→令和8、南中→南箕輪中学校 等)
- ・全部ゴシックだと見にくいので、フォント等を工夫したい・
- ・めざす子どもの姿の中の、「たのもしさ」は、ひらがなか漢字「頼もしさ」か、「思いやり」が漢字なので、漢字もあるが、司馬遼太郎の「21世紀に生きる君たちへ」からもってきたとするならば、「たのもしさ」か。

【南箕輪村教育委員会事業計画案について】

教育委員

○食育に関する取組を入れたい。

○外国にルーツをもつ子どもたちへの支援や日本語指導の取組を入れたい。

○メディアリテラシー教育に関する内容を入れたい。特に、小学校の低学年から、スマホ・ゲームについて児童と保護者が共に考える機会を設けたい。

(2) 感染症に関して

※11月、12月にインフルエンザ感染で、複数の学級で数日間の学級閉鎖あり

(3) 児童・生徒数について

〈会議資料2〉

※会議資料にて報告

(4) 事故報告

〈会議資料4〉

※非公開

(5) 各委員から口頭で

○12/19、南部小のメディアリテラシーに関する研修会（小6と保護者対象）に参加した。子どものやっているゲームの内容やスマホに関する状況を知らない親が多い。子どもたちは、何が悪くて何がよいか、わかっている。親がもっと理解したい。スマホ等の接し方について今、注目されている。海外では規制している国もある。こういった研修をコツコツと継続して実施していくしかないと思う。

ひと昔は、高校生になるときに、スマホを持たせるかで各家庭で議論がたつた。今は中学生になるときに、どうするか考える時代。LINE等で連絡するのが当たり前となり、スマホが必要な時代になった。与え方については、スマホの利便性と合わせて危険性についての知識をもちたい。

○先日、高遠中学校の授業に地域講師として参加した。音楽と理科の合同授業。理科の「音の伝わり方」の単元で、机上の知識にとどまらず、身近な生活の中にある音楽、例えばピアノの音が鳴る仕組みと関連付けることで、音についてより関心を持ち、音の伝わり方を深く理解していこうとするねらいでの授業。参加してみて私も大変勉強になった。地域の専門家を招くという意味で、キャリア教育の視点もあった。他に、社会と数学、美術と国語といった実践もあるとのこと。働き方改革で業務改善も必要だが、地域の方が授業に参加することで生徒の学びが広がる、先生方の負担も軽減される、この方向も1つの働き方改革として考えたらどうか。

○11月22日 村の人権講演会「ネットと人権～生成AI・SNS時代とどう向き合うか～」に参加した。ネットの怖さを知らない大人の顔が青ざめていく時間であった。生成AIを使っていくためには、「その情報について違和感をもつ感覚」「嫌だなと思うことをスルーする力」「批判的思考力」が必要であるとのこと。「そういう力を若い子どもたちにつけるには、どうしたらよいですか？」と質問したら、「友達としゃべる」「家族、祖父母、近所の人、いろいろな方としゃべる、会話をする」「本を読む」「新聞をもっと読む」といった、当たり前のことが大事であるとの回

答であった。ネット社会の中で通用する人間になるには、今まで大事にされてきた当たり前のことを行うことが改めて大切であることを実感した。この当たり前のことをぜひ実践したい。

○最近のどんど焼きから、地域の力についての危機感

昔は各家庭を回って集めていた。2年前から、小学生がいない組は集めない、小学生がいる組だけ集めるとなり、今年は、集めないとなった。地区PTAの役員さんにその理由を尋ねると、隣の区がそうしたからとのこと、隣の区は、小学生のいる家庭でも組に入らない状況であるので、そうかもしれないが、この傾向はいかがなものか。集めるのが大変、楽になったらそれでいいのか、夏休みのラジオ体操も1週間で終わりも気になる。行うのが負担だから止めるという傾向があるが、その方向だけでいいのか、楽になるからという感覚がわからない。目先のことだけ考えればいいのか、形だけやったことにしてすませればいいのか、5年先、10年先のことを考えて行動したい。このままでは、地域の力がなくなっていく。心配である。

○確かに、子どもの数が減っている組では、昔のとおりにはいかない状況もある。どんど焼きであれば、区公民館やコミュニティーセンターへ箱に直接もっていく方法をとっている場合もあり、結構集まる。どんど焼きを文化として継承する気持ちはあると思われる。子どもだけの活動とするのではなく、地域の団体やサークルと連携して取り組むケースも出てきている。地域の力をどう発揮していくか、そのあたり、今後の取組を考える際に大事にしたい。

○11月30日の地域支え合いフォーラムに主催する側として参加した。

上伊那農業のシクラメン部、信大農学部の中原寮のメンバーも参加して盛り上げてくれた。来年は、小中学生も探究の学習の一環として、参加できそうなクラスに呼びかけていきたい。

○食育の大切さについて、特に食事を作る経験を重ね、食事を作ることでできる大人になってほしい、そこで今後、夏休みや冬休みに、地区社会福祉協議会で食事を作るイベントに力を入れていきたい。

○生成AIの普及が速い。以前はプログラミングをやるといいと言われていたが、今はすでに遅いと言われている。事務仕事は生成AIがやってしまう時代になり、職がなくなるとも言われている。むしろ、配管工等の専門的職種が人手不足と言われている。これからの時代は変化の大きな時

代になる。その時代の中で、村でめざす子どもの姿として「柔軟な思考力」を身につけるとあった、時代の変化にどう対応するか、その際、この「柔軟さ」を大事にしたい。

教育長

- メディアリテラシーに関する研修会、今後も三校で継続して実施したい。講師の松島先生（子どもとメディア信州代表）の話は大変わかりやすい。6月に全県で行うスマホ・ゲーム等に関するアンケート結果をもとに、その学校の利用状況に即して話してくれるので、切実感が持てる。ぜひ親子で聴く機会として、話を聞いて、各家庭でどう付き合っていけばいいか話し合う契機としたい。低学年からという意見、大変参考になる。
- 地域コミュニティーをどう維持・発展させていくか、まさにお互いの「社会力」の育成・発揮に関わる内容。「社会力」を発揮する機運を高めたい。
- 生成 AI に対応する力として、本を読むがあった。プログレス・ルームの廊下の壁に、「読むことは 築くこと 考えることは 創ること」と題して、本から学ぶことのできる情報を提供している。村民センターを「図書館化」する1つの取組。今後、若者に、若いうちに出会ってほしい本や、言葉、生き方に関する情報を発信していきたい。
- 食育教育について、ぜひとも「自炊力」を入れて考えたい。将来、一人暮らしをする上での必須条件は、「自炊力」を身につけておくこと。限られた予算で食材を買う、冷蔵庫の中の食材を見て作る料理のアイデアが浮かぶ、包丁を使って調理できる（使う野菜を切る、りんごの皮を剥く等）短時間で2～3品作れる、食器の洗いものをその都度行う、「自炊力」を身に着けるにはいくつものハードルがあり、一朝一夕には難しい。子どもの時からの、家庭におけるお手伝いを少しずつ行う経験の中で身につくものである。この経験を大事にか考えたい。「自炊力」は子どもが自立した大人になる上で、ぜひとも身につけたい力である。
- 教育大綱の中の「めざす子どもの姿」の中の「柔軟な思考力」、時代の変化に対応する上で、大事に捉えていきたい。

教育委員

○休日の地域クラブの中 3 部活動引退後の対応について

各クラブの実情によるので柔軟に考えたい。1・2年生中心の新体制で臨んだ方がいいケースもある。1・2年生を支える形でのサポートする場合もある。様々なケースがあることを想定したい。

○休日の地域クラブで活動するには、わくわくクラブへの加入が必須。平日の部活動と休日のクラブ活動との連携上、ぜひともわくわくクラブに入って、平日も休日一緒に活動出来たらいいなという生徒の声もある。

○今後、平日の部活動の一部を休日の地域クラブが担っていくケースが増えていき、平日の地域展開が想定される。その際にも、ぜひ学校現場の施設を使ってスムーズに活動できるよう配慮してもらいたい。

(7) 11月事業報告・12月事業計画について

〈会議資料5〉

※会議資料にて報告

(8) 1月、2月の教育委員会定例会日程

1月26日(月) 15:00~17:00 村民センター小会議室

2月16日(月)

総合教育会議 13:30~15:00 村民センター小会議室

定例会 15:00~16:30 村民センター小会議室

5 その他

教育委員

- 吹奏楽部、吹奏楽クラブへの地域からの寄付についての対応を早めをお願いしたい。
- 村民センターのホールのステージに登る階段、傾斜が急で怖いので、ぜひ手すりをつけてほしい。

6 閉 会

教育長

教育大綱の案を審議いただきありがとうございました。2月の教育総合会議に提案できるよう、1月の定例教育委員会で修正案を協議いただきたいと思います。教育委員さんには、12月の教育懇話会に参加いただき感

謝です。地域の方々の様々な声を聞く貴重な経験となりました。今後の教育行政に活かしていきたいと思います。あと 1 週間で本年も終わりとなりますが、来年も引き続き、よろしくお願い致します。

本日のご参加ありがとうございました。